

映画を用いたポライトネス表現に関する 視覚的学習支援について

田 畑 圭 介

Using Movies to Help Students Learn and Visualize the Expressions of Politeness

Keisuke TABATA

要 旨

英語のポライトネス表現の指導の際に、映画の該当場面を背景知識とともに英語学習者に提示することで、書籍媒体の教材以上に学習内容の理解を促す可能性を具体的なポライトネスの事例をもとに検討する。文字と音声だけでなく使用されている映像を通して用法を理解することで、使用場面の疑似体験に近い効果が得られることが推測でき、学習効果と学習意欲の向上が期待できる。映像を用いた英語教授法の一事例を示すとともに、映像資料による英語用法の検証可能性を考察、例証することが本稿の目的となる。

キーワード：英語教育、映画、ポライトネス

1. はじめに

映画を使って、英語を学習することのメリットについて、近藤（2015）は実証研究が十分行われていないことを問題点として挙げつつ、教材として映画を活用することによるオーセンティックな言語の提供、意味のあるコンテキストの中での学習言語の提供、学習者の興味や学習言語の記憶の強化、そして4技能の向上等が期待されている現状について言及している。映画は学習者向けに

デザインされたものでない点においてオーセンティックな教材であると考えることができる。第二言語習得における映画の有用性については Baddock (1996) や Burt (1999) など、さまざまな研究者から肯定的な見解が提示されている。

本稿では英語学習テキストの学習内容を映画の使用場面を通して英語学習者に提供し、学習内容を効果的に定着させる手法について論じる。学習内容をテキスト付属の音源で繰り返し聞き、暗唱する作業に加え、学習表現の使用場面を映画を通して自分の目と耳で確認してもらうことで、該当表現の使用法を実用性も踏まえて定着させることが可能となる。またその使用法が映画やテレビドラマを通して検証可能であることも合わせて示される。

現在は映画やテレビドラマのトランスクリプトをダウンロードできるサイトが、齊藤・中村・赤野 (2005) をはじめ、Web 上でも多数紹介されている。そうしたトランスクリプトを入手してテキストエディタを使って検索可能な状態にしながら、学習内容の表現を検索して該当場面のデータを集積することができる。また Hulu といった映像配信サイトを活用して該当場面に関わるシーンを即座に確認することも可能である。検索対象を一つの映画・ドラマに絞る手法と、多くの映画・ドラマのトランスクリプトを集積したコーパスを検索対象とし、該当表現を串刺し的に見ていく手法の 2 通りの分析手法が想定できる。本稿では登場人物に関する背景知識が英語のポライトネス表現の理解に必要となることから、単一の映画を検索対象とし、登場人物の特徴を理解しながら、用いられているポライトネス表現を詳しく見ていくことにする。本稿で言及するポライトネスは、語用論の分野で述べられている専門用語を指すものではなく、「礼儀正しさ」「丁寧さ」という一般的な意味のポライトネスである。

2. 映画 *Back to the Future* について

本稿では教材として使用する映画に *Back to the Future* を選択することにする。映画は三部からなり、Part I は1985年、Part II は1989年、Part III は1990年に公開されたものである。Part I は、主人公のマーティ・マクフライが友人のド

ク・ブラウンを救うために過去にタイムトリップするストーリーであり、**PartⅡ**は、未来の自分の息子を救うため、また自分が引き起こしてしまった歴史のゆがみを修復するために、**PartⅢ**では再びドク・ブラウンを救うためにタイムトリップをするストーリーとなっている。

Back to the Future を教材として選択した理由としては、**PartⅡ**で未来にタイムトリップした年月日が本年2015年10月21日であることで話題性があることが挙げられる。自動で靴紐が閉まり足にフィットする未来のスニーカー「Nike Mag」がNIKEより上記年月日にあわせて発売されたことや、映画の中に登場する宙に浮く未来のスケートボード「hover board」の開発が進んでいるニュースが2015年の執筆現在に流れており、映画に登場するものすべてにおいて話題性がある。本映画を用いることで、1985年の時代から現在までの時間と歴史の流れを学習者に感じさせることができる。**PartⅠ**では1955年にタイムトリップした過去で、(映画上の架空都市である) Hill Valley 市の市長にアフリカ系アメリカ人が当選することに対して懐疑的に語られている場面がある。マーティはアフリカ系アメリカ人のゴールディー・ウィルソンが(映画の設定上)市長をやっている未来からやってきており、本人に市長になる気持ちを芽生えさせるやりとりが描かれている。現実のアメリカでは1989年にアフリカ系アメリカ人のデヴィッド・ノーマン・ディンキンズがNew York 市長に選出され、また2009年にはバラク・オバマ大統領が誕生している。**PartⅠ**での市長にまつわるやりとりは将来のアメリカを予想したかのような内容となっている。アメリカの時代の流れと社会性を授業で考える教材にもなりえる映画である。

本稿で触れることになる映画の主要登場人物は次のものである。

表 1 *Back to the future* の主要登場人物

役 名	俳 優	解 説
マーティ・マクフライ (Marty McFly)	マイケル・J・フォックス (Michael J. Fox)	この作品の主人公でギターが得意

ドク・ブラウン (Doc Brown)	クリストファー・ロイド (Christopher Lloyd)	マーティの親友で発明家の老人
ジョージ・マクフライ (George McFly)	クリスピン・グローヴァー (Crispin Glover)	マーティの父親で気弱な性格
ロレイン・マクフライ (Lorraine McFly)	リー・トンプソン (Lea Thompson)	マーティの母親
ステラー・ベインズ (Stella Baines)	フランシス・リー・マッケイン (Frances Lee McCain)	ロレインの母親
ジェラルド・ストリックランド (Gerald Strickland)	ジェームズ・トールカン (James Tolkan)	Hill Valley 高校の教頭先生

3. 映画で見るポライトネス

本節では英語のポライトネスについて映画の使用場面をもとに実証的に確認・考察を行い、映像で裏付けながら該当用法を学習者に教授する手法を具体的に提示する。ポライトネスの事例および解説についてはスティーブ・ソレイシィ、ロビン・ソレイシィ著『英会話ペラペラビジネス100』（以下ビジネス100）から適宜引用して議論を進める。この書は各レッスンで学習する構文に関する対話例と5つの例文を示しながら、ポイントとなる解説を与える構成となっている。ソレイシィらのポライトネスに関する解説を引用しながら、*Back to the Future* の該当場面を参照し、その用法を映像とともに学ぶというのが本稿が薦める学習手順となる。引用元の書はビジネスの場面に適切なポライトネスをイメージして記述されているが、その礼儀正しさ、丁寧さは一般的な場面でも当てはまるものを選び出し、ソレイシィらの解説を引用しながら、その内容に該当するトランスクリプトを示す手順で議論を進める。

3.1. Please don't. (そうしないでください)

(1) 相手に「そうしないでください」と言いたい時に、No, no, no, no. はきついし、子供っぽい印象を与えることもあるので、NG。同様に Stop, stop, stop. も使わないで。Please don't. と言おう。これなら相手に丁寧に注意を促すこと

ができる。また指や手で×マークを作っても通じないし、場合によってはマナー違反になるから注意して。(ビジネス100:53)

ソレイシィらは、相手にやめてほしいことを伝えるときには、"Please don't." がポライトネスの観点から適切だと解説している。また No, no, no, no. は子供っぽい響きがある表現だと指摘している。

(2) Biff: Uh, no, no, no, no. What are you looking at, butt-head? (Part I)

(2)のように no, no, no, no.と発話しているのは、Part I からⅢまで悪役で登場するビフ・タネンである。不良の役柄で宿題を他人に押しつけるような人柄が映画の中で描かれており、子供っぽい印象を与えたり、また無礼な言動を平気で行ったりするキャラクターである。ソレイシィらの解説とビフの発言と立振舞いは一致することから、(1)の解説は映画の場面から裏付けられる。(2)はビフ自身にとっては適切な発話表現だといえる。

(3) Marty: Whoa, whoa, kid, kid, stop, stop, stop, stop. (Part I)

(3)は主人公のマーティの発話であるが、これは子供に対して発しているものであることから、ポライトネスが求められる発話ではない。子供に合わせて言動が求められる場面であり、(3)も場面に応じた適切な発話だと帰結される。

Back to the Future の中には Please don't.と丁寧に相手を止めようとする発話がなかったため、この表現に限り、テレビドラマ *Ugly Betty* よりその使用場面を引用することにする。

(4) *Ugly Betty* (2nd Season, Episode16)

A: Okay, look. I can fix this.

B: Please don't.

大人同士で丁寧な表現形式が求められる場面では、No, no, no, no.や Stop, stop, stop.ではなく、Please don't.を用いるべきであることが各表現の発話場面を確認することで導かれる。(1)の説明を単に CD の音声とともに学習者に提示するだけでなく、使用場面を映像資料を使って解説・確認を行うことで、学習者の理解度が少なからず向上することが期待できる。

3.2. 別れ際の表現

(4)「お先に失礼します」「ではまた」「お疲れさまでした」など、ビジネスシーンにはいろいろな日本語表現のバリエーションがあるけれど、これを直訳しようとするのは大間違い。これらは、どれも [See you + 時間を表す言葉] の表現で言い表すことができる。[See you] の後に時間などを表す言葉をつけることがポイント。次にいつ会うかわからなくても、挨拶は大切。そんなときは See you again sometime. か See you later. で。実際、別れ際に See you. だけを言っている学習者も多い。でも、これは未完成なセンテンスだし、失礼にあたる場合もある。日本語で言うなら、「じゃ」「じゃーねー」みたいなもの。ベストの形ではない。どんな場合も [See you + 時間または場所を表す言葉] がベスト。(ビジネス 100:35)

単に See you. だけでは不完全で、後ろに時間や場所を表す表現を付けるのが良いと指摘している。*Back to the Future* での使用例が(5)である。

(5)

Marty: I gotta go, uh, I gotta go. Thanks very much, it was wonderful, you were all great. See you all later, much later.

Stella: He's a very strange young man. (Part I)

マーティは30年前の過去にタイムトリップし、高校生のロレインの家から慌てた様子で立ち去ろうとする場面であるが、それでも時間の表現を see you の

後に続け、「(30年後の) ずっとずっと後で会いましょう」と述べている。慌てている中、時間の表現を付けていることは(4)の解説に合致している。Part II では、"See you at the plant tomorrow." Part IIIでは "See you in the future." の表現が見られ、"See you." 単体で終わっているセリフは一例もないことから、ソレイシィらの解説は映画の各場面に当てはまっている。"See you." だけで終わってはいけないという説明を学習者にする際に、(5)などの対話場面を見せることは学習者の興味を引きつける意味でも効果がある教授法といえる。

3.3. I'm not sure. (わかりません)

(6)「わかりません」と丁寧に言いたいなら、I'm not sure. I don't know は「自分には関係ない」「わかんない」といった投げやりな印象を与える。でも I'm not sure.. も使いすぎは禁物。知っている限りの情報を伝えたり、積極的に調べたりすることが大切。たとえば、I'm not sure when. だけでなく、これに But I think it's tomorrow. (が、明日かもしれません) と可能性を伝えるといい。

(ビジネス100:31)

自分が知らないことを相手に伝えるときに、つい "I don't know." といってしまうがちであるが、(6)に述べられているように "I don't know." は投げやりな印象を与える恐れのある表現である。ポライトネスの観点では "I'm not sure." のほうが適切となる。ただし "I'm not sure." だけで終わるのではなく、自分の知っている情報を付け加えたり、自分も知ろうとする姿勢を相手に示したりすることが大切だとしている。"I'm not sure." は Part II の中で次のように用いられている。

(7) Marty: How long do you think she's gonna be out?

Doc: I'm not sure, she received quite a shock. Could be for a few minutes,
most probably a couple of hours.

(Part II)

彼女（恋人のジェニファー）がどれくらい気を失っているだろうかとマーティがドクにたずねると、ドクは "I'm not sure." と答えたあとに、状況説明とおおよその予想を伝えている。"See you." の場合と同様に後に関係する情報を補足することで適切に対応する気持ちがあることを相手に伝えることができる様子が(7)の場面からうかがえる。ソレイシィらの解説は(7)のドクの言動と合致しており、相手に丁寧に対応するための表現方法が(7)の場面に示されている。単に(6)の説明を学習者に提示するだけでなく、ドクの情報提示の姿勢を学習者に映像で確認させることで、ポライトネスに関する理解を深めさせることが可能となる。

3.4 出合いの表現

(8)初対面でない人には Nice to meet you. は使わないで。2回目以降に会うときには、Nice to see you.を使うこと。(It's) nice to meet you. は初対面の人に対して言う言葉。(ビジネス100:77)

人に会ったときの挨拶は初対面の場面では動詞 meet を用い、2回目以降の場合は、see を用いることになる。

(9)はビフが会いたくないところでストリックランド教頭先生に出会ってしまった場面である。

(9)

Strickland: Well, well, well, Mr. Tannen. How nice to see you here.

Biff: Why Mr. Strickland, it's nice to see you sir.

Strickland: Is that liquor I smell, Tannen?

Biff: Uh, I wouldn't know, I don't know what liquor smells like 'coz I'm too young to drink it. (Part II)

(9)ではすでに知っている人と出くわした場面であるので、see が用いられている。

(10)はマーティの父親ジョージとマーティの母親ロレインが初めて出会った場面である。

(10)

Marty: I'd like you to meet my good friend George McFly.

George: Hi, it's really a pleasure to meet you.

Loraine: How's your head?

Marty: Well uh, good, fine. (Part I)

(10)の場面ではマーティが高校生のお父さんであるジョージを将来のお母さん、ロレインに紹介している。お互いが初めて会った場面であるので meet が使われている。すでに出会ったことがある人に対して meet を使った挨拶を行うと、相手はすでに会っていることを覚えていないと認識し不快に感じてしまう恐れがある。(9)(10)の使用場面を示すことで、初対面の相手との挨拶では meet、2回目以降の相手との挨拶では see を用いることを明確に学習者に提示することができる。

補足となるが、(8)の解説に加え、ソレイシィらは著書の中で(11)のようなことも言及している。

(11)自己紹介の基本中の基本は…目が合った瞬間に Hi. これは「どうも、こんにちは」の意味。「やぁ」ではない。発音は「ハイ」。「ハァイ」はだめ。目上・目下・同僚にも使える。(ビジネス100：21)

Hi を「ハァイ」とのばす挨拶の仕方は、「シーユー」とともに和製英語として日本語で観察されるが、Hi は英語ではのばして言うことのないフレーズである。こうした音声上の注意事項や出会った場面の挨拶の仕方も映像資料で確認

することで英語学習者に理解しやすいかたちで教授できる。

3.5 挨拶表現

知人に出会ったときの挨拶表現は何パターンもあり、いずれの表現も交換可能な等価表現だと認識している英語学習者が見受けられる。実際には各表現にはフォーマルの度合いに大きな差が見られる。一部の表現はスラングに属するもので、かなり近い間柄でしか用いられない表現である。

(12) スラングはよくない。特に挨拶でスラングを使うのは無礼。たとえば、**What's up?**は絶対避けて。これは「元気？」ではなく「ちわ〜っす」のようなニュアンス。適用する関係や TPO はごく限定されている。これほどではないが、親しい人以外には **How's it going?** と聞くとなれなれしすぎる。挨拶は **How're you doing?** がいい。もう一つ見落としてならないのは、こう聞かれたら、どうレスポンスするか。お勧めはとりあえず **Good, and you?** (ビジネス100 : 85)

ソレイシィらはボライトネスの観点では "**How are you doing?**" が挨拶表現として最適だと述べている。Part I の中でジョージは(13)のように述べている。

(13) George: Oh hey, Biff, hey, guys, how are you doing?

Biff: Yeah, you got my homework finished, McFly? (Part I)

ジョージは映画の役柄としてドラえもんに登場する「のび太」のような性格であり、またビフは「ジャイアン」のようなキャラクターである。(13)の発話でビフはオレの宿題をちゃんとやったかとたずねていて、(13)の対話からお互いの関係と立場が窺える。(13)の場面で "**How are you doing?**" ではなく、"**What's up?**" とジョージが発してしまったとすると、ジョージは次の瞬間ビフからぶっとばされている場面が想像できる。ジョージが相手との関係を意識して丁寧に挨拶

したいときには "How are you doing?" の挨拶表現の選択が最適だということが (12) の解説を通して理解できる。ジョージとビフの関係と挨拶表現のポライトネスを理解したのち、(13) のやりとりを見ることで、適切な挨拶表現の選択を実践的に学ぶことができる。挨拶表現にフォーマル度の違いが存在することを映画を通して示すことで、学習者の興味を引きつけながら知識を定着させることが可能となる。他の挨拶表現の使用場面も合わせて集積することで、挨拶表現の多様性と適切性を認識させる効果的な映像資料が構築できる。

3.6 依頼表現

(14) Check this. は命令形でとても強い言い方。「これチェックして」といったニュアンス。丁寧に言うなら Would you check this? 「これをチェックしていただけますか」。一方、Can you check this now? は「今これをチェックすることは可能ですか」と都合を尋ねている。もっとソフトに「これをチェックしていただけると幸いです」なら、I hope you can check this. ビジネスでは、相手を動かすことが大切だから [I hope you can...] は要マークの表現。また「絶対にやってもらいたい」ということをソフトに言うならば、I really appreciate it if you checked this. (ビジネス100:107)

(15)

Doc: Thank god I found you. Listen, can you meet me at Twin Pines Mall tonight at 1:15? I've made a major breakthrough, I'll need your assistance.

Marty: Wait a minute, wait a minute. 1:15 in the morning? (Part I)

(15) ではドクがマーティに夜中の 1 時すぎにきてほしいということをお願いしている。さすがに時間が時間なので、ドクは相手の都合をたずねながら依頼する can you の表現を用いている。(15) の依頼内容はドクにとって重要であり、またストーリー上でも大切なものである。ドクが命令的な言い方をしてマーティが拒むようなことがあってはならない場面である。依頼表現の形式の選択を誤る

と意図せぬ展開を導いてしまう可能性があることを(15)の依頼表現や前節の挨拶表現を使って解説することができる。依頼表現にも多彩な形式があり、それぞれを使い分けることの必要性を英語学習者に伝えるうえで、映像教材の提示は効果的で実践的な手法といえる。

4. おわりに

本稿では映画 *Back to the Future* のオーセンティックな実例を用いてポライトネスに関わる英語表現を考察し、使用場面の映像を提供することで、実践的な学習環境が構築できるとともに使用法の解説の正当性も同時に示せることを例証した。各場面に登場する人物の性格と関係性をふまえることで、丁寧さ、礼儀正しさの必要性をより把握しやすい学習環境を提供することができる。映画の映像資料は、授業の単調さを避ける材料にもなり、学習内容に対する興味・関心を持続させる効果的なツールにもなる。

参考文献

- Baddock, B. (1996). *Using films in the English class*. Hemel Hempstead: Phoenix ELT.
- Beim, J., DeKeyser, D., Fields J., Hayek, S., Horta, S., Klever-Weis, J., Silverman, B., & Tamez, J. (Producers). (2006-2010). *Ugly Betty* [Television series episode]. United States: Disney-ABC Domestic Television.
- Burt, M. (1999). Using videos with adult English language learners. Retrieved October 29, 2015, from http://www.cal.org/caela/esl_resources/digests/video.html
- Canton, N., Gale, B. (Producers) & Zemeckis, R. (Director). (1985). *Back to the Future* [Motion picture]. United States: Universal Pictures.
- Canton, N., Gale, B. (Producers) & Zemeckis, R. (Director). (1989). *Back to the Future Part II* [Motion picture]. United States: Universal Pictures.
- Canton, N., Gale, B. (Producers) & Zemeckis, R. (Director). (1990). *Back to the Future Part III* [Motion picture]. United States: Universal Pictures.
- 近藤暁子. (2015). 「映画を使用した日本人学習者対象のリスニング指導効果」. 『映画英語教育研究』, 第20号, 19-32.
- 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎(編). (2005). 『英語コーパス言語学 基礎と実践』(改訂新版), 東京: 研究社.
- スティーブソレイシィ・ロビンソレイシィ. (2002). 『英会話ペラペラビジネス100』, 東京: アルク.